

ステップアップ

No.29



発行日：平成25年12月20日
発行所：下関病院 広報委員会

下関病院 〒759-6613 山口県下関市富住町6丁目18番18号
TEL：083-258-0338 FAX：083-259-8876
<http://www.mizunoki.jp>

電子カルテ



導入について

下関病院では、10月1日から電子カルテを導入しました。

これまでもオーダリングシステムとしての運用はしており、処方や検査の指示・検査結果の確認などはコンピュータを使用して行ってきました。加えてこれからは、医師の診療記録、看護師やその他の専門職の記録など、診療に関わるすべての情報がコンピュータに蓄積されるようになります。診療に関わる全職員が必要な情報をいつでもすぐに引き出せるようになり、チーム医療のさらなる発展につながると考えています。

また、画像管理システムの範囲も拡大しました。CT・X線画像がモニタ上で閲覧できるようになり、完全にフィルムレスでの運用が可能となりました。紙カルテ・フィルムの搬送や管理業務が大幅に削減することで、患者様の直接的なケアをより重点的に行うことができます。

導入からまだ日が浅く、業務の大きな変化に戸惑いも見られますが、将来的には必ず必要不可欠なツールとなっていくはずで、患者さまとより多く、より丁寧に向き合えるよう、これからもITを活用した業務効率化に努めていく所存です。（電算室 山藤 彩）

膨大な医療情報の保存や管理が容易になり、文字の判読不能もなくなりました。記憶という曖昧なものに頼ることなく、検索機能の有効利用も可能となりました。また、院内の別の場所で必要なときに、ネットワークを通じてすぐに情報を呼び出すことができます。

一方、記録の自由度や簡単さは失われ、パソコンがなければカルテ閲覧ができない不便さがあります。業務効率向上を目的とした、端末操作の習得を続けていく必要もあります。

（女子リハビリ病棟 室谷 美由紀）



私を感じる電子カルテ導入でのメリットは、情報がたまかではありますが項目ごとにまとめて検索を行う事が出来、情報収集し易い点。また、診察前にカルテの準備を行う必要がない事などから、患者様の待ち時間の短縮につながっていること等が挙げられます。

デメリットとしては、操作方法の熟知が必要であるという事です。いかに準備時間・情報収集時間の短縮につながっていても操作時間が長ければ短縮化出来ず、さらに時間をかけることにつながると考えます。

（男子リハビリ病棟 山口 隆二）



学会報告

第 37 回 中国・四国精神保健学会

アルコール依存症に対する作業療法
～仲間づくりを目指した1例～
作業療法士 近藤圭佑

リハビリへの意欲向上を目指した
買い物活動への取り組み
～治療意欲の向上を目指して～
看護師 辻原 明美

イメージを介した心理療法についての一考察
～思春期の統合失調症患者との関わりを通して～
心理士 松田 拓也

平成 25 年 12 月 5 日・6 日の二日間、寒さが募る時期に『うどん』で有名な香川県のサンポートホール高松にて「最近の精神科領域の治療を再考する」をテーマに第 37 回 中国・四国精神保健学会が開催され、精神科医療に従事する様々な職種が一同に集いました。当院からも 3 名の医療従事者が研究の成果を発表してきました。

将来を見据えた研究および作業療法を行う上で、他職種と連携し、チーム医療で患者さんに良質な医療を提供できるように日々、努力していきます。



第 2 回 日本精神科医学会学術大会

長期入院患者の社会復帰に向けた
閉鎖病棟での取り組み
～ある慢性統合失調症患者の
退院支援を通して学んだこと～
看護師 岩畑 義和

慢性腎不全患者における
薬原性錐体外路症状評価尺度 (DIEPSS)
を用いた副作用モニタリングの一例
薬剤師 清家 浩二

平成 25 年 11 月 14 日・15 日に第 2 回目となる日本精神科医学会学術大会が大宮ソニックシティで開催されました。

今回の学術大会のテーマは「精神科医療の新たな展開 ～専門分化と統合化～」とし、昨今の精神科疾患の特性から行政の在り方の変化、現場で感じる疾患の変化を的確に捉え、これらのテーマを掘り下げた内容での大会となりました。

自身のポスター発表では事前のプレゼンのおかげで、緊張することなく発表が行えました。服薬指導で得た情報を患者さん、スタッフ間で共有することの重要性を訴えることができ、これらは他病院においても関心の高い事柄であると感じました。

また学会中は様々な職種の方々と交流や発表にふれることができ、良い刺激を受けました。

医療は日々進歩しており、今後も情報を更新させながら、薬の専門家として精進していきたいと思えます。





新任ドクターのご紹介



村雨 順一郎 先生
むらさめ じゅんいちろう

初めての土地、未経験の科で入職以来とても新鮮な気持ちで働かせていただいています。医療はチームプレイだと考えます。初めてづくしの精神科ですが質の高い医療の提供に寄与できるよう努力いたします。1967年愛知生まれ、琉球大卒でこの4月から6年目です。よろしくおねがいします。

入船 龍也 先生
いりふね たつや

平成25年12月より非常勤でお世話になっており、平成26年4月から、常勤医として勤めさせていただく予定の入船龍也と申します。一時期北九州の病院で勤務していましたが、36年以上山口県で医療活動をしています。専門は血液内科ですが、おおむね内科全般に対応できると思います。できる限り、皆さんのお力になれるよう頑張らせて頂きたいと思っておりますので、よろしくおねがいいたします。

学術講演会のご報告 11月30日(土)下関病院附属地域診療クリニック 3階研修室



「発達障害の理解と支援」

医療法人テレサ会 西川医院
発達障害研究センター センター長 **林 隆 先生**

今回の林先生のご講演は私たちにとって大変有意義なものとなりました。それは、先生のご講演が発達障害の概念的な説明や整理に留まらず、そのテーマや話題が先生の臨床の中から選ばれたものであり、先生の生きた言葉で語られたものであったからのように思います。その中で、発達障害の支援に際して「通常」の支援での成果や変化を「諦めること」の大切さを説かれたことが印象的でした。「通常」の支援やそこでの成果や変化を「諦め」、その人の個性を理解した上での支援を行うことによって、その人の適応や成長が期待できるのだらうと思えます。私は、そこに先生の「諦めない」臨床家としての姿勢を感じました。貴重なご講演をありがとうございました。(心理技術部 杉本 正志)



行事報告



ふれあいつestival 2013.11.9

下関市保健部
マスコット
こころん

この日は天気にも恵まれ、地域住民の皆様を含めた多くの方々に来場していただきました。気候も寒くなってきたおりバザーでは、うどんなどの温かい食べ物の売れ行きが好調だったようです。

今回は病院、クリニックを含めた各職業・施設の展覧会が目玉企画となっており、心理士の杉本さんによる講演や安岡小学校金管バンドによる演奏会が行われるとあって、多くの方がクリニックへ足を運ばれていたようです。

また、下関保健所のマスコットキャラクター「こころん」の飛び入り参加もあり、子どもさん達の笑顔も多く見ることが出来ました。



連載 スタッフをつなげる、趣味のはなし。

つなげよう！スタッフのわ

第12回 山藤 彩 広報委員

編み物が好きで、春夏はレース編み、秋冬は毛糸を編んでいます。

この冬は、今年生まれた姪っ子のために帽子やマフラーを編みました。こども用は初めて編んだのですが、小さくてかわいくて、とても幸せな気持ちになりました。

編みたいものやチャレンジしたい技法などが、たくさんあるのですが、なかなか追いつきません。一生の趣味として、長く続けていけたらいいなと思います。



NEXT 川岡精神保健福祉士です。おたのしみに！

編集後記

寒い時期になり、患者さんへの体調管理には気を配っていますが、まずは職員一同が

万全な健康管理を徹底して、患者さんへの医療を実践していかなくてはなりません。心身を暖めてくれる美味しいお鍋でも食べて、皆さん、明日からまた仕事頑張ってください。



(広報委員 田名橋 佳伸)